

らくよう

楽しく 陽るく 荘全体で
お年寄りの人権を守ります。
その方らしい生活が出来るよう応援します。
最後までお世話させていただく準備が来ています。
県内で一番美味しい食事である事を自慢しています。
特別養護老人ホーム楽陽荘 平成30年 5月号 NO. 297

《ユニ・チャーム新人研修》

今年もユニ・チャーム株式会社様より、52名の新入社員の皆様が3班に別れて楽陽荘へ研修に来られました。明るく元気で若いユニ・チャームさんの挨拶を始め、お年寄りとの声掛けや接し方はすごく丁寧に優しくお話をされるのを見て一緒に関わった私たちも初心を思い出し頑張らなくてはと、大変勉強になりました。
お花見にも行きました。花吹雪の舞う中で輪になりお話をしたり歌ったりみんなで楽しむことが出来ました。



《やべち》

楽陽荘周辺の用水路の掃除（やべち）をしました。一年間の草や土で結構の量が溜まっており各職種で大変な作業となりましたが、きれいになった用水路にメダカや小ブナ、ザリガニが泳いでいてとてもうれしくなりました。

かき上げた沢山の草やヘドロをまとめて捨てて行って下さるのは自治会の皆様です。有難うございます。今後も地域の方々の支援を頂きながら私達がここで出来ることを模索していこうと思っています。

《みんなで書道クラブ》



研修を終えたユニ・チャームの皆さんから感想文を頂きました。
ユニ・チャーム（株）A氏

認知症の方を介護することは想像以上に難しく大変なものであり実際に介護してみないと分からないことが多くありました。中でも、一番難しいと感じたことは認知症の入居者様とのコミュニケーションでした。ただ、言葉と言葉のキャッチボールだけでは到底意思疎通は図れませんでした。相手の表情、しぐさ、時には手をつないで反応を見る等体全体でコミュニケーションを図ろうとしなければ分かり合えない場面が多くありました。何より大事なことは「相手を知ること」だと感じました。入居者様が何を望んでいて何を伝えたいのかを体全体を使ってしること、感じようとしないとコミュニケーションはとれないと痛感しました。また、排泄介護において、より快適なオムツは使用者だけでなく介護者の負担も軽減できると感じました。どうしてもオムツを使用する人という視点でオムツ製品を考えがちですが、介護者という視点も大事な視点であるという気づきを得られました。介護の難しさを感じる場面が多かったですが、その分入居者様とコミュニケーションがとれた瞬間は楽しく笑顔になってくれた時は素直に嬉しかったです。私は、営業、マーケティング職という役割にはなりますが、オムツ利用者、介護者を少しでも快適な生活に導いていけるようこの経験を忘れずに頑張っていきたいです。

ユニ・チャーム（株）B氏

介護実習を行い、今まで「ヘルスケア」に対して本やニュースなどから得た情報からしか想像することが出来なかったがよりリアルな情報を知ることが出来ました。その中には、やはり想像していたものとギャップがありました。特に入居者様とのコミュニケーションのとり方は想像以上に難しく、食事介助では「何を食べたいのか」「どうしたら食べてもらえるか」を考えジェスチャーなどを加え工夫をしました。また、この実習を通じて介護職員の方々の仕事振りには非常に感心し本当に多くのことを学ぶことが出来ました。入居者様の情報を事細かに共有されており介護という仕事の繊細さや責任の大きさなどを朝礼の時の報告から感じました。オムツの交換や食事などの業務全てにおいて入居者様一人ひとりに合わせた対応を行い、楽陽荘の理念である《楽しく陽るく荘全体で》にあるよう職員の方は常に笑顔で仕事されている姿は非常にかっこよく見えました。私も、ヘルスケアで社会を良くしていきたいという思いがあるので今回の実習で学んだこと、気づいたことを活かしていくことでこの出会いをしっかりとステップアップにつなげます。最後に、今回の実習を通してお世話になった楽陽荘の全ての入居者様、職員の方々、本当にありがとうございました

私たち職員もユニ・チャームの皆さんから元気と若さをたくさんいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また、来年も顔ぶれは変わりますが、お会いできることを楽しみにしています。

《編集後記》

5月晴の天空を元気よく泳ぐ鯉のぼり。日本の美しさを代表するものとして誰もが見上げて喜びを感じます。この鯉のぼりも風の吹きようでいろんな場面を見せてくれます。風速1メートルでは泳ぎません。3メートルで45度揺れています。5メートルでは90度で真横に勢いよく泳ぐそうです。お年寄りと散歩に出て鯉のぼりを見るのが大好きです。

広報担当：中西和・井下美・横山理